

■ 専門科目

メディア芸術

比較芸術論

後期・選択・2単位

Comparative Study on Arts and Design

担当教員 岡本弘毅、沼田浩一、藤山哲朗、川中利満、中山玲佳

授業の目的と到達目標（学修成果）

さまざまな芸術の相違と共通性、狭義の芸術と広義の芸術との関係等について考察し、各種芸術の適切な比較、独自の比較を行い、芸術全体の知識を広げ、各自が専門とする芸術制作と芸術論を高めることが目標である。

授業計画の概要

比較芸術論では、美術、建築、まんが、アニメーションなど広義の芸術の比較講義を行う。

メディア造形論

2026年度開講・選択・2単位

Theoretical Studies of Media Art and Design

担当教員 吉田雅則、山本忠宏、武田峻彦、永吉宏行

授業の目的と到達目標（学修成果）

情報技術の発達により多くのデザイン、芸術分野においてデジタル技術を扱う領域が増大している。日常の生活環境においてもデジタルを介して生産されたコンテンツやプロダクトを当然のように目にするようになった。そうしたコンテンツやプロダクトを生み出すクリエイションの現場においても、画像や映像、3次元形状をデジタルによって処理する必然性は高まる一方である。

一方でクリエイションの現場におけるデジタル技術の活用は新たな考え方や技術更新の影響を受けやすく常に流動的であり、分野間における作法の違いも顕著である。新たな考え方や技術更新により、制作フローが抜本的に刷新されるということも珍しくはない。

以上のように本講義で扱う内容が日々更新を続ける分野に属することを踏まえた上で、映像、3D データ、物語生成といったメディアクリエイションに関わる実践的な制作を通して基本的な"デジタル体力"やデジタルリテラシー"を獲得することを到達目的とする。

メディアアートプログラム

2026年度開講・選択・2単位

Media Art Program

担当教員 菅野博之、夢野れい、工藤稜、さくまはな

授業の目的と到達目標（学修成果）

メディアアートは分野によって、その目的性も方向性も違う幅広い学問分野である。複数教員の講義によって、メディアアートの幅広さについて継時的に、また分野横断的に理解する事を目的とする。

授業を通して、自らの周りに存在する様々なメディアアートについて明確な考えの元に向き合える教養を持つ事を到達目標とする。

授業計画の概要

菅野 博之(まんが・コマ構成)・夢野 れい(まんが・イラストレーション)・さくまはな(現代アート・美術教育)・工藤 稜(イラスト)の各分野の教員が、各自の専門に合わせてメディアアートについて概観する講義を行う。

簡単な制作を伴う場合もある。